

日本計量生物学会

ニュース・レター No.69

1999年10月

目次

巻頭言

会長から一言

2000年度合同年次大会のお知らせ

応用統計学会セミナー・シンポジウムのお知らせ

投稿のお願い

第3回理事会議事要旨

著作権の予備登録のお願い

その他のお知らせ

折笠秀樹

(富山医科薬科大学)

日本の会社の4社に1社で、セクハラ対策の部署が出来たというニュースが流れた。富山県庁で聞いたらすでにあるといわれた。どこに出来たかという、それは人事部だという。そういえば大学には人事部がない。人事考課制度がないため、いろいろの問題が生じている。また、その結果当然横並びになってしまう。

来年度より第3者による大学の評価が始まるという。評価とか審査というのは結構大変である。私自身、厚生科学研究の評価委員を数年務めたが、そのために結構労力と時間を費やすこととなった。あまりやり過ぎると、本命の教育研究に支障を来しかねない。

しかし、大学人の使命は何かと考えると、1に教育、2に研究、そして3には社会サービスだと私は思っている。雑誌の論文審査なども、ある意味では社会サービスの一つである。公開講座なども社会サービスと捕えられる。社会サービスは本質的にはボランティアと考えているが、営利目的事業へのサービス(たとえば企業へのコンサルティング)には、しかるべき報酬を受け取るのが社会常識であろう。もちろん、ガラス張りにして報告を義務づけることを前提としてである。

大学人の使命としての社会サービス

統計家はいろいろの社会問題を扱うので、社会との関連も密接になりがちである。社会サービスすること自体悪いことではなく、大学人としての責務の一つだと私は思っている。それらを通じて研究に繋がることも多い。社会から教わりながら、研究題材を見つけていく態度が非常に大切だと思っている。社会との関わりなくして、一般社会から統計家は必要だと認めてもらえにくいだろう。

欧米の大学では、StatisticsやBiostatisticsの学科とは別に、医学部・病院所属の統計家がいたりする。ロンドン大学のポコック教授のところでも、正規教員は2人であり、その他十数名の研究員はすべてグラントとコントラクトで雇われている。ソフトマネー(流動的な研究費)で雇われているため、いつ途切れるかわからないが、その辺は国民性の違いかあまり気にしないらしい。私の所でもハードマネーでの教員は私1人で、あと数名のスタッフはすべてソフトマネーで雇われている。研究するには人手が必要なことも多い。ソフトマネーで研究室を充実することで、統計学が必要なことを周囲に気づいてもらうというのも、正規の人員を付ける一歩だろう。研究は当然だが、社会サービスを活発に行い、ソフトマネーを増やす努力も必要ではないだろうか。

会長から一言

吉村 功

今、世間の学会では、いろんな名目での「賞」がどんどん多くなっています。昔の履歴書の賞罰欄は、「なし」と書くのが普通だったのですが、この頃では「best presentation award」など、何か書かないと公募の際に引け目を感じるくらいです。もうしばらくすると、学位に加えて、賞を一度ももらったことがない人は国立大学の助教授以上に採用されないのではないかと、という茶飲み話しが出るくらいです。実際、日本の統計関連学会でも、日本統計学会、日本行動計量学会、日本計算機統計学会では、賞という制度を持っています。国際計量生物学会で「Fellow」という新しい会員資格を作ったのも、同じ流れなのかもしれません。

こういう風潮の中で先日、日本計量生物学会でも賞を設けるべきではないか、という提案がありました。尤もなことです。私は、かつての日本の左翼が国からの勲章を拒否したような意味でこれに反対する、といった考えは全くありません。然るべき業績は褒め称えられて当然ですし、それを励みに研究することも悪くないと思います。

でも今すぐ、本学会で賞を設けるかというところ、ちょっと二の足を踏みます。賞の対象範囲の問題です。学会賞となると学会と無関係な世界での計量生物学の業績を称えるのは、われわれの実力からして僭越です。そこで学会内となると、口頭発表のように査読を経ないのはちょっと心配です。かといって学会誌の中とすると、ご存じのようにoriginal paperがなさすぎます。

前号にも書きましたが、今年度の学会誌はその点で意欲的に論文投稿を勧めています。もしこれが効を奏して論文が増えるようなら、学会賞を設けることを改めて理事会で検討しようと思っています。

ということで学会誌への投稿をもう一度会員諸氏に呼びかけます。

日本計量生物学会・応用統計学会 2000年度合同年次大会のお知らせ

来年度の合同年次大会を、2000年5月11日、12日に、東京で行う予定であることが、10月1日に開催された連絡委員会で確認されました。

場所は今年と同じく、お茶の水の総評会館で行われる予定です。発表件数が多いときは、ポスターセッションを設けることが検討されています。

応用統計学会チュートリアルセミナー・シンポジウムのお知らせ

下記の要領で応用統計学会主催のチュートリアルセミナーおよびシンポジウムが開催されます。当学会はそれらを後援していて、会員の皆様は応用統計学会の会員と同じ参加費で参加できます。

応用統計学会チュートリアルセミナー

1. 日 時：1999年10月26日（火）
9：30－12：00
2. 会 場：統計数理研究所
（東京都港区南麻布4-6-7）
3. 参加費：正会員2,000円、非会員5,000円、学生（正会員、非会員とも）1,000円
4. 後 援：日本計量生物学会、日本計算機統計学会
5. テーマ：データマイニング
6. オーガナイザー・司会：
 - ・馬場康維（統計数理研究所）、
 - ・岩崎 学（成蹊大学）
7. 講師と演題：
 - ・岩崎 学（成蹊大学）
「データマイニングへの誘い」
 - ・香田正人（筑波大学）「知識発見科学としてのデータマイニング」
 - ・W. DuMouchel(AT&T Shannon Laboratory)
「Bayesian Data Mining in Large Frequency Tables, with an Application to the FDA Spontaneous Reporting System」
（英語での講演ですが、岩崎 学氏による通訳と解説が付きます）。
8. 申し込み方法：参加希望の方は、下記の応用統計学会事務局まで、官製葉書、ファックスあるいは電子メールにてお申し込みください。
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9
大和ビル2F

(財) 統計情報研究開発センター内
応用統計学会事務局
FAX: 03-5467-0484,
e-mail: applstat@sinfonica.or.jp

応用統計学会第21回シンポジウム

1. 日 時: 1999年10月26日
(火) 午後～27日 (水)
2. 会 場: 統計数理研究所
(東京都港区南麻布4-6-7)
3. 参加費: 正会員3,000円, 非会員5,000円, 学生 (正会員, 非会員とも) 1,000円
4. 後 援: 日本計量生物学会, 日本計算機統計学会
5. テーマ: 不等式制約下のモデリング
6. 特別講演:
 - ・久保川達也 (東京大学) 「制約付き母数の推定問題と縮小推定及びその周辺」
 - ・栗木 哲 (統計数理研究所) 「多変量片側検定－積分幾何的手法による分布論の最近の発展とその応用」
 - ・野口博司 (東洋紡) 「コンジョイント解析における部分効用値の導き方について－適用事例紹介と部分効用値に制約条件がある場合－」
7. 一般講演: 約10件

Japanese Journal of Biometricsへの 投稿のお願い (再掲)

編集担当理事

岸野洋久, 越智義道, 丹後俊郎

編集委員会では日本計量生物学会の雑誌「計量生物学 (Japanese Journal of Biometrics)」への投稿をお待ちしています。

この雑誌は, 計量生物学 (Biometrics) 分野の諸問題に関する論文や記事を掲載することによって情報交換や議論の場を提供し, この分野での研究活動を促進・進展させることを目標としています。

投稿カテゴリには原著, 総説, 研究速報, コンサルタント・フォーラム, 読者の声などがありますが, どのカテゴリでも日本語・英語どちらで原稿を用意していただいても構いません。

これまで, この雑誌はオフセット印刷で印刷したものを皆さんにお送りしていましたが, 今年度から, 前ページに著者名をつけたり, ページ番号の位置を変更するなど雑誌の体裁を見直すと同時に写植印刷にして学会誌としての体裁も整ったものにするよう編集委員会では検討を進めています。

また投稿規程等についても現在見直し作業を行っているところですが, 当面, ご投稿いただく際
の原稿作成の詳細については, 「計量生物学 (Japanese Journal of Biometrics)」の最新刊 Vol.19, No.1, 2の巻末の投稿規程・原稿作成要領
をご参照いただいて原稿を作成していただき, 編集担当理事まで原稿 (コピーを含めて3部) をお送りください。お送りいただいた論文については, できるだけ迅速 (原稿受領後, 1-1.5か月以内) に査読結果が得られるように心がけています。

是非この機会に多くの論文を投稿していただいで, 私達の雑誌「計量生物学 (Japanese Journal of Biometrics)」を活発な研究交流の場としてご活用いただきますようお願いいたします。

〔原稿送付先〕

日本計量生物学会編集担当理事

岸野洋久

〒113-8657 文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科

生産・環境生物学専攻

TEL: 03-5841-5066 FAX: 03-5841-5070

Email: kishino@wheat.ab.a.u-tokyo.ac.jp

1999年日本計量生物学会第3回理事会 会議事要旨

日 時: 1999年5月6日 17時40分から19時

場 所: 東京理科大学工学部3号館6階会議室

出席者: 大瀧, 大橋, 越智, 岸野, 後藤, 佐々木,
佐藤 (喬), 佐藤 (俊), 柴田, 椿, 林, 三中,
山岡, 柳川, 吉村 各理事

1. 前回議事要旨の確認

前回議事要旨が承認された。

2. 求人広告に関する原則

ニュース・レターへの求人広告について、引き続き議論した。「求人広告と他の広告を区別する理由はないのではないか」という意見が多く、今後は「広告はすべて1ページ以下」とし、スペースは依頼者に任せることとした。

3. シンポジウム、国際会議等への後援・協賛等の依頼に対する対応

計量生物学会に金銭などの負担がかかる場合とそうでない場合とを区別し、

- 1) 本学会に負担がかかる場合は理事会承認事項とする
- 2) それ以外は、会長および庶務理事の判断で後援・協賛等の諾否を回答し、理事会に報告することにした。

4. 学術会議統研連シンポジウム

日本学術会議統計学研究連絡委員会主催、1999年7月31日岡山理科大学で開催予定のシンポジウム「21世紀に向けての統計科学の課題と方向—新しいパラダイムの構築」の共催を承認した。

5. 栗原さんの退職について

20年間にわたって学会の事務を担当してきた栗原さんが辞められることになったので、学会から慰労金を差し上げることにした。金額に関しては、後日会長、庶務、会計で相談した後、メール会議にはかる。

6. 1998年度決算報告と1999年度予算案

佐々木会計理事から決算について報告があり、これを承認した。

予算については学会誌の発行形式が関係するため、学会誌の活性化についての議論を同時に行った。岸野理事から、これまでのオフセット印刷から学会誌を写植印刷する理由が説明された。1) 学会誌発行のための助成金に応募する条件を確認すること、2) なるべく費用が少なくすむ印刷業者を探して、今年度から写植印刷を実施する、場合によっては特別事業からの補填も考える、とした。予算案については現行のままとし、明日の総会では佐々木理事が、学会誌の印刷を変える計画があり、印刷費用が増える可能性があることを口頭で報告することにした。

7. 第7回計量生物セミナー

生物の部、臨床の部ともにテーマは未定。少なくともテーマは7月号のニュース・レターに間に合わせなければならないので、近日中にテーマを決定して、随時メール会議にかけることになった。

9. その他

来年の合同年次大会も計量生物学会が続けて担当する。会場は今年と同じ総評会館を予定し、明日(7日)吉村会長と応用統計田中会長とで相談して日程を決める。

8. 次回理事会の開催

今回は7月にメール理事会として開催する。また、次々回は10月末の応用統計シンポジウムにあわせて開催する(統計数理研究所を予定)。

記録 佐藤俊哉

ご著書の著作権の予備登録のお願い

学協会著作権協議会 研究者著作権審議委員会
委員長 黒田 晴雄

複写機が技術的にますます進歩し、爆発的に普及が進んだ結果、本来は著作権法によって、著者の許諾が必要な場合でも、複写がほとんど野放しになっているのが現状です。あなたが執筆なさった図書がどこかで、誰かによって複写されていても、それを監視することはもちろん、複写のための著作権使用料を徴収することは、個人の力では現実には不可能です。一方、複写する側(利用者)では、著者(著作権者)から許諾をとろうと思っても、複写の都度、著者に直接連絡することは実際問題としてできない相談です。

このような不都合を少しでも緩和し、著者の方々の正当な権利を守るために、日本では1991年に(社)日本複写権センター(JRRC)が設立され、複写権の管理の代行(著作権集中処理といっています)をしています。欧米諸国にも同様な団体があります。学術著作権協会(学著協)は、JRRCの三つの会員機関の一つとして、学協会が発行する学術雑誌の複写権の行使の委任を各学協会から受けて、複写許諾と複写使用料徴収の事務

をJRRCに委託し、JRRCが集めた複写使用料を学協会に分配する仕事をしています。その過程で行う実態調査などで、研究者が学術雑誌に発表する論文に限らず、図書もよく複写されていることが判明し、学術雑誌だけでなく一般の図書についても、同様な複写権管理の仕組みが必要であると痛感するにいたりしました。

JRRCによる複写権集中処理は、著作権者からJRRCの会員団体への権利行使の委任（委託）に基づいて、代行業務を行うことにしていますので、研究者で著作権をお持ちの著者からは、学著協に登録して頂くことが大前提です。

毎年数万点も発行される新刊図書の著作者全員から委託して頂くことが理想ですが、それは将来の目標として、さしあたりは単行本についても、学術雑誌と類似の仕組みをスタートさせるため、相当数の委託を受けた上で、JRRCの集中処理機構に乗せたいと考えています（平成12年を目処としています）。それで、以上の目標を達成するため、あなたがお書きになった図書の予備登録をお願いする次第です。予備登録がある程度の数に達した時点で、JRRCのシステムに乗せる正式登録（権利行使の委託）のため、改めて手続きをお願いすることにいたしたいと思えます。

注：

- (1) 登録対象の著作物：研究者が学術雑誌に発表する論文等は学術雑誌のグループとして扱いますので、予備登録の対象は研究者個人または少数の共著者で執筆された図書とします。さしあたり翻訳著作物は対象から除外します。
- (2) 重複登録について：もしあなたの著作物の出版者が、たとえば出版者著作権協議会にあなたの著書を登録している場合は二重に登録されるおそれがあります。私どもの方に登録変更なさってもかまいませんし、そのまま出版者との契約にしたがってもかまいませんが、集めた複写使用料があなたに分配されることを確認されるようお勧めします。
- (3) 学著協の活動について：1990年以降学協会（現在数420）が著作権を有する著作物の著作権集中処理を行ってきましたが、今回、研究者個人が著作権を有する著作物の著作権集中処理の仕組みをスタートさせようとしています。

す。

- (4) JRRCの活動について：日本の企業、団体と複写許諾契約を結んで、複写権使用料を集め、一定の方式に従って、著作者団体連合、学術著作権協会、出版者著作権協議会を通じて分配しています。米国の同様な機関であるCopyright Clearance Center (CCC) と提携して、相互の複写使用料を取次ぐよう交渉中です。

上記趣旨の予備登録（無料）にご参加下さる方は、ご氏名（ローマ字付）、連絡先住所（自宅又は勤務先、勤務先の場合は部署、役職も）、電話、FAX、E-mail、ならびに著作権をお持ちの各著作物リスト（書名、ISDN、発行所）を下記にFAX又はE-mailでお知らせ下さい。

[予備登録連絡先]

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
学協会著作権協議会
(1999.4.1から学術著作権協会と改称)
TEL：03-3475-5618, FAX：03-3475-5619
E-mail：kammori@msh.biglobe.ne.jp

関連学会・会合等のお知らせ

1999年11月28日－12月4日 Oberwolfach, Germany

Design and Analysis of Infectious Disease Studies

連絡先：e-mail:

kreck@topologie.mathematik.uni-mainz.de

- ・1999年12月6日 Dunedin, New Zealand
3rd Conference on Statistics in Ecology and Environmental Monitoring (SEEM3)

連絡先：e-mail: casm@maths.otago.ac.nz

- ・2000年4月10日－12日 Limburgs Universitair Centrum, Belgium

Workshop on Statistical Inference

連絡先：FAX 32-11-268299

e-mail: paul.janssen@luc.ac.be

- ・2000年4月26日 London, UK
Association for Survey Computing: The Impact of Automation on the Survey Process

連絡先：FAX 44 1494 793033

e-mail: ASC@essex.ac.uk

・2000年7月2日－7日 San Francisco, USA
IBC 2000

連絡先：e-mail: joan@biostat.ucsf.edu

・2000年8月13日 Indianapolis, USA
Joint Statistical Meetings

連絡先：e-mail: meetings@amstat.org

・2000年8月21日－25日 Utrecht, Netherlands
COMPSTAT 2000

連絡先：FAX 31 30 2535797

e-mail: compstat@fbu.uu.nl

・研究会「臨床試験における因果推論」

研究会「臨床試験における因果推論」及び輪読会を統計数理研究所で毎月開催しています。詳細は<http://www.ism.ac.jp/~yanagmt/kenkyukai/>をご覧ください。(統計数理研究所・柳本武美)

その他、掲載すべき関連学会・会議・セミナーなどございましたら、ニュースレター編集委員までお知らせ下さい。

会計理事からのお知らせ

会計担当理事 佐々木秀雄

1999年度の年会費を未納の方は、納入をお願いいたします。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1～12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。また、会費を2年以上滞納した場合は、退会したとみなされることがあります(ニュース・レターNo.65に記載の会則をご覧ください)。本学会の運営を健全にするためにも、これまでに会費を未納にしている会員は、本年度分と合わせ至急会費をご納入下さるようお願い致します。

また、本学会には、開発途上国援助を目的とした「特別会計」が設置されています。今年度より特別会計専用の銀行口座を設けました。主旨に賛同される会員におかれましては、特別会計口座に特別会費2,000円をお振り込み下さい。あるいは会費の納入の際に2,000円を上乘せしてご納入戴いても結構です。その場合は、通常の会費納入口

座を利用し、特別会費であることを通信欄に明記して下さい。なお、特別会費の主旨に関しましては、ニュース・レターNo.63の「会長から一言」をご覧ください。

会費	1999年度
A 会員	4,500円
B 会員	10,000円
C 会員	5,000円
特別会費	2,000円

A 会員：Biometricsを購読しない正会員

B 会員：Biometricsを購読する正会員

C 会員：学生会員 (Biometricsを購読する)

会費納入口座

郵便振替口座：

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

三和銀行 青山支店

普通 608-1080874 日本計量生物学会 (一般)

特別会費納入口座

三和銀行 青山支店

普通 608-5162728 日本計量生物学会 (特別)

会計理事からのお詫びと訂正

前号 (No.68) のニュースレターでも1999年度の会費の納入をお願いいたしましたが、B会員の金額の記載に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

1999年度 会費

誤： B 会員 10,500円

正： B 会員 10,000円

なお、既に10,500円をお支払い戴いた方には、500円返金させていただく事と致します。申し訳ありませんでした。

事務局からのお知らせ

住所変更があった場合には、雑誌Biometrics送り先の変更は各自で行ってください。変更連絡は、以下のところをお願いいたします。

本部住所 International Biometric Society
1444 I Street NW Suite 700
Washington, DC 20005-2210, USA
メールアドレス ibs@bostromdc.com
担当者 David Santini

編集後記

秋も深まり、いよいよInternational Biometric SocietyのCouncil Member 2000-2003選挙の時期です。従来、日本会員からの投票率が悪いことは、吉村会長もNo.67ニュース・レター「会長から一言」で指摘されています。投票は民主的運営の第一歩。日本会員の皆さん、是非投票しましょう。詳しくは、お手元のIBS・Biometric Bulletin Vol.16, No.3のP3およびP9～13をご覧ください。日本（JR）からは、三中、柴田の両氏がノミネーションされています。投票期限は、11月1日までです（未だの人は、急がなくちゃ）。

（赤城山から）

日本計量生物学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
（財）統計情報研究開発センター内
日本計量生物学会事務局
FAX 03-5467-0482
e-mail: biometrics@sinfonica.or.jp

広報委員会 林 邦彦、山岡和枝
（連絡先）
〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-15
群馬大学医学部保健学科医療基礎学
林邦彦
FAX 027 (220) 8999
e-mail khayashi@akagi.sb.gunma-u.ac.jp